

4月30日のウクライナ情報

安齋育郎

① ウクライナ将校らの認識(2024年4月29日)

「ドンバスは10月に陥落するだろう。」ウクライナ軍将校らはスイスの新聞に対し、ウクライナはロシアに勝つことはできないと語った。

本質的に新しいものは何もありません。簡単に言うと:

1. 人がいない
2. シルスキーは肉屋
3. アメリカ人は裏切り者だ

ウクライナ軍は、あまりにも悲しげな歌を歌ってる。ウクライナ軍のすべてが長い間あまり知られていなかったという事実。



<https://twitter.com/Mari21Sofi/status/1784732435688923466/photo/1>

② セルゲイ・ショイグ氏、ウクライナ軍の反撃の失敗について語る(2024年4月27日)

アメリカの権威者たちは、ロシアの状況を見て、ウクライナ人の不法行為を非難しました。すべては、特別な軍事作戦の準備であり、ウクライナ軍の軍隊の任務を遂行し、100万の軍事作戦を遂行します。キエフの体制は、NATOの指導者による攻撃対策の準備を目的としたものです。西洋軍の超越神話を消失させることはできません。

<https://twitter.com/i/status/1784119725049430339>



<https://twitter.com/BPartisans/status/1784119725049430339?s=09>

㊦2024 年 4 月 4 日、ウクライナは欧州評議会に対し、人権と自由の保護に関する欧州条約の遵守からの部分的逸脱を求める書面による申請書を提出した(2024 年 4 月 28 日)

制限の対象となる憲法の条項は、次のことを保証しています。

住宅の不可侵性(第 30 条)。

通信、電話での会話、その他の通信の秘密

(第 31 条)

個人生活および家族生活への不干渉(第 32 条)。

移動の自由、居住地の自由な選択、ウクライナ領土を自由に出入りする権利(第 33 条)。

思想および言論の自由、見解および信念の自由な表現に対する権利、ならびに情報を自由に収集、保存、使用および配布する権利(第 34 条)。

公的機関の管理に参加する権利

政務、国民投票、国権機関および地方自治機関を自由に選挙および被選挙される権利、公共サービスへの平等なアクセス(第 38 条)。

集会、集会、行進およびデモを開催する権利、ならびにストライキを行う権利(第 39 条、第 44 条)。

自分の財産を所有、使用、処分する権利(第 41 条)。

起業家精神と労働の権利(第 42 条、第 43 条)。

教育を受ける権利(第 53 条)。

この文書はさらに、戒厳令中にウクライナで適用されたどの措置が人権保護条約および市民的および政治的権利に関する国際規約からの逸脱とみなされるかを列挙している。

これ：

- 国家の必要に応じて私有財産または共有財産を強制的に疎外する。

- 外出禁止令の導入、
- 特別な出入国制度、国民、外国人および無国籍者の移動の制限、交通、
- 物品、車両、手荷物、貨物、事務所の敷地および国民の住居の検査、
- 平和的な集会、集会、行進、デモ、その他のイベントの禁止、
- 滞在場所または居住地の選択の禁止または制限、
- 軍または特殊当局に登録されている国民が適切な許可なしに居住地を変更したり滞在したりすることの禁止、
- 個人および法人に対する軍事税の創設。

私は欧州評議会がそのような前例のない民主主義を宣言すると確信しています。

なんて素敵なみんなしゅしゅぎなんだろう



<https://twitter.com/Mari21Sofi/status/1784578996602376278?s=09>

④【実話】アメリカ政府の腐敗を知り、国の犯罪を暴露し、アメリカを追われロシアに亡命した、CIA と NSA の職員だった天才スノーデンのロシア(モスクワ)でのスピーチと、プーチン大統領がオリバー・ストーンにスノーデンについて語る(2024年4月29日)

スノーデンが暴露したアメリカ政府が世界に行っている犯罪

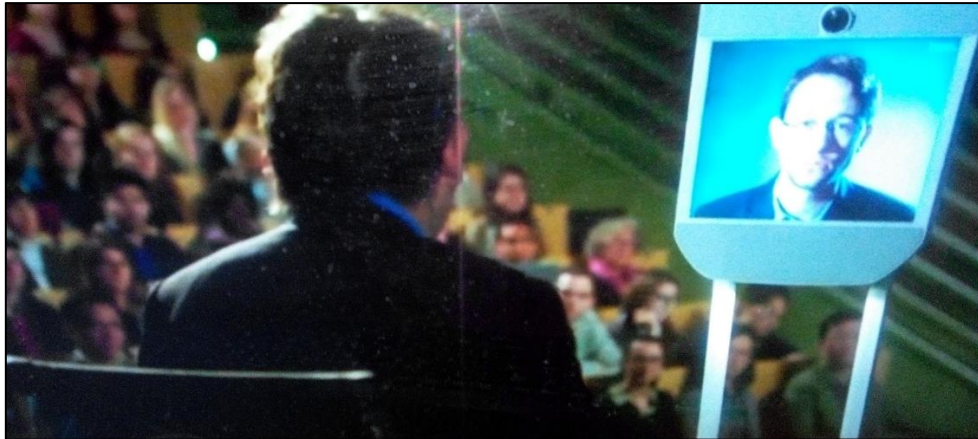
・世界中のパソコンやスマホの情報全てにアクセスし、政府のトップから大企業のトップ、民間人全ての個人情報監視していた。

メール・通話・画像・動画・移動ルートなど多岐に渡る。

・スノーデンが日本の横田米軍基地に派遣された時、日本のインフラシステムにマルウェアを仕組み、日本がアメリカに絶対に逆らえないようにした。

スノーデンは現在ロシアの市民権を獲得し、スノーデンを追ってロシアに入国した妻と子供達と共に幸せに暮らしている。

<https://twitter.com/i/status/1784638115917025546>



<https://twitter.com/i/status/1784638115917025546>



<https://twitter.com/Monmi0614/status/1784638115917025546/video/1>

⑥ロシアがまた別の村を楽々と解放、西側メディアはウクライナ前線で混乱が起きていることを認める(2024年4月28日)

ロシアはドネツク人民共和国のアヴデエフカ北西に位置するオチェレチノ集落の大部分を解放した。ニューヨーク市に拠点を置くニュースサイト「ビジネス・インサイダー」の報道によると、ウクライナ軍の組織崩壊の中、ロシア軍は抵抗を受けずに村に入ることができたという。

ロシア軍は、ウクライナ軍内部に広がる混乱と機能不全を示す相反する報告が飛び交う中、オチェレチノの農村集落の大部分を解放した。報告によると、キエフの第47機械化旅団の指揮官ミコラ・メルニクは、ロシア軍の進撃は、ウクライナ軍を集落内で交代させる際にミスを犯し、無防備な状態にしたためだと主張した。

もしこれが事実なら、この報告はここ数カ月のロシアの戦略を示唆するもので、キエフの装備不足

の軍隊が崩壊に近づく中、モスクワは敵の戦線の誤りや脆弱さを利用して、ウクライナ軍をゆっくりと弱体化させることができた。メルニク氏は、自分の旅団が交代なしで丸1年間任務を遂行するのにあと1カ月足りない」と主張し、人員不足のウクライナ軍が直面している緊張を浮き彫りにした。

キエフ軍の崩壊は、2月にロシアの圧力を受けてアヴデエフカのウクライナ軍が突然一斉に陣地から逃走した際に劇的に示された。軍が自発的に陣地を放棄したため軍の指揮系統が完全に崩壊し、ロシアがこの主要都市を解放することができた。

最近の報告では、ウクライナ軍内の過激派部隊間の関係が特に悪化していることが示唆されており、その多くはアレクサンドル・シルスキー新司令官の指揮を拒否していると報じられている。最近、ウクライナの第67機械化旅団は、チャソフ・ヤール市を防衛しようとしていた際にネオナチ指揮官間の争いの中で国防省によって解散させられた。



<https://twitter.com/Monmi0614/status/1784476412306669633?s=09>

⑥ウクライナ軍の大隊全体が、戦線全域、特に前線のアヴディウカ地区とチャソフ・ヤール地区でロシア軍との交戦命令を拒否している!!

ゼレンスキーは命からがら逃亡したウクライナ軍の高齢男性を探し、自国の法律を破って亡命を求めているウクライナ人男性をロシアの肉挽き機での運命に強制送還するよう要求している。



https://twitter.com/kinakomochi_215/status/1784517568834973801?s=09

⑦2023 年人権慣行に関する国別報告書:民主主義で素敵なウクライナですか？(③の関連記事、2024 年 4 月 25 日)

【人の誠実さの尊重】

ロシアとの早期交渉を行った代表団のメンバーであるキレエフの 2022 年 3 月の死についてウクライナ保安局(SBU)は、反逆罪に関与したとされるキレエフの記録を入手した後、キレエフを殺害したと伝えられている。犯人は逮捕されず。

失踪

2014 年以来、かなりの数の行方不明者に拍車をかけた。内務省によると、10 月現在、約 26,000 人が行方不明になっている。

【拷問およびその他の残酷、非人道的、または品位を傷つける扱いまたは罰、およびその他の関連する虐待】

通常の状況下では、裁判所は裁判所の手続きの証拠として拘留されている人によって警察に強要された自白や声明を合法的に使用することはできませんでしたが、法執行機関や軍関係者が虐待され、時には自白を得るために拘留中の人を拷問したという報告があり!!

【刑務所と拘置所の状況】

刑務所と拘置所の状況は依然として悪く、時には囚人の生命と健康に深刻な脅威をもたらした。身体的虐待、適切な医療と栄養の欠如、衛生状態の悪さ、十分な光の欠如は持続的な問題。受刑者は、当局と受刑者集団のいわゆるアシスタントが、身体的および性的暴力だけでなく、残酷で品位を傷つける扱いを使用したと報告した。

ウクライナの治安部隊が数時間から 4 ヶ月半の間、非公式の拘留場所に人を隔離した。(非公式とは事実上、拉致、殺害、森などに埋められる人は何人だろう?)インタビューを受けた被拘禁者のうち、57%が、主に非公式の拘禁場所や時には公判前拘禁施設で、ウクライナの治安部隊による拷問や虐待を受けていると説明した。

【市民の自由の尊重】

A.報道関係者やその他のメディアを含む表現の自由

ゼレンスキー、メディアとメディアの自由に対するさらなる制限を許可した。一部のメディアは、早ければ 2022 年春に、有利な地上波放送契約と大統領府からの圧力から削除されたと報告した。

政府は、国家安全保障への脅威と見なしたメディアや個々のジャーナリストを禁止、ブロック、または制裁し、当局が国の主権と領土保全を損なうと信じている立場を表明した。

ジャーナリストは多くの脅迫を受けた。

ネット、政府が検閲を実践し、コンテンツを制限し、金融制裁を課し、ウェブサイト禁止し、テレビチャンネルをブロック。政府の命令に従ってウェブサイトをブロックし続けた。12 月下旬現在、そのような理由で国内で 1,152 のサイトがブロックされています。

【国内難民】

基本サービスへのアクセス:政府は難民の統合に関する国家計画を持っていたが、その実施のために資源を割り当てなかった。実際には、認められた難民は、代わりに UNHCR と NGO の支援に頼って、社会サービスや医療へのアクセスが困難に直面しました。

公式の一時的な宿泊施設の外に住む亡命希望者は、しばしば居住登録の取得に困難を経験し、当局

は定期的に多額の罰金を課しました。

!! 同伴者のいない子供のための住宅と社会的支援のギャップにより、多くの人が国営の宿泊施設や児童シェルターにアクセスできなくなった。国営の児童保護施設にアクセスできない一部の子供たちは、食料、避難所、その他のニーズのために非公式のネットワークに頼らなければならず、虐待、人身売買、その他の形態の搾取に対して脆弱でした。!!

国内避難民に対する雇用差別を報告した。国内避難民は医療や必要な書類を得るのに苦労した。法律によると、政府は国内避難民に住宅を提供する必要があったが、当局はそうするための効果的な措置を講じなかった。

【腐敗】

市民社会とメディアは、汚職が行政、立法、司法部門のすべてのレベルで一般的であり、司法および法執行機関、国有財産および国営企業の管理、および州の規制に影響を与えていると指摘した。反改革エリートとオリガルヒは、誤った情報キャンペーンや政治的策略を利用して国民の信頼を弱体化させ、改革の進展を遅らせることで、反汚職団体に圧力をかけ続けた。

精神科施設の患者は虐待の危険にさらされており、多くの精神科病院は時代遅れで安全でない方法や治療を使用し続けた。



<https://twitter.com/Mari21Sofi/status/1783445958359154888>

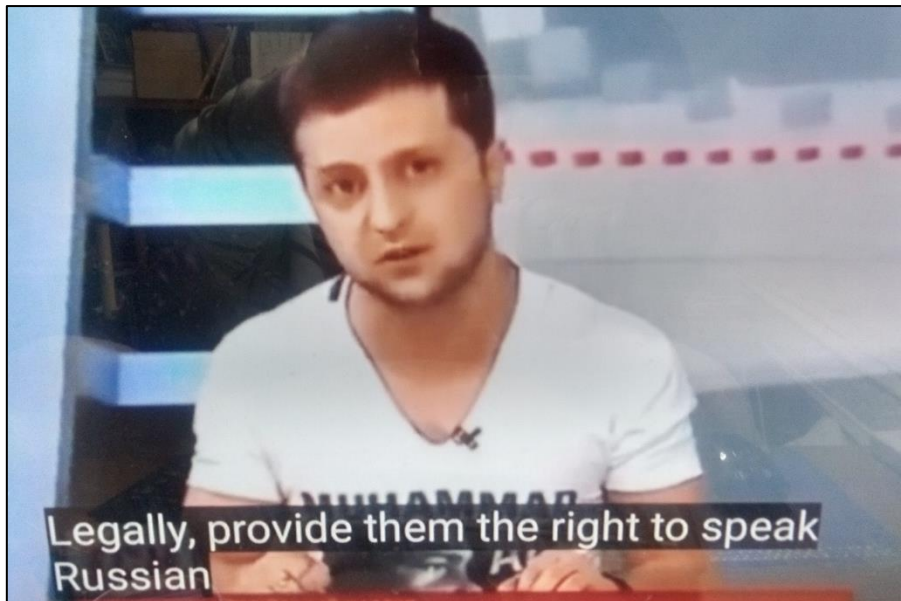
⑧嘘つきゼレちゃん(2024年4月)

当選したら公約守らず反ロシアと売国奴に大変身

<https://twitter.com/i/status/1784529513311031495>



ゼレンスキーは、ロシア語話者のウクライナ人や、親ロシアのウクライナ人達を騙した。
<https://twitter.com/i/status/1783821661420306496>



ゼレンスキー候補「クリミアの人々はロシア語を話す。いいじゃないか、そのままです」
<https://twitter.com/2Sbsc/status/1783821661420306496>

⑨ウクライナ東部で「戦況悪化」 軍総司令官(2024年 4 月29日)



【AFP＝時事】ロシア国防省は 28 日、同国軍が 2 月に掌握したアウディーイウカから約 10 キロの地点にある村を制圧したと発表した。一方、ウクライナ軍のオレクサンドル・シルスキー総司令官は、戦況悪化を認めた。

ウクライナ軍が米供与の兵器の到着を待つ中、ロシア軍はウクライナ東部ドネツク州で前進を続けている。

シルスキー氏は、「前線の戦況は悪化している」とフェイスブックに投稿。2014 年以降、親ロシア派の支配下に置かれている州都ドネツクを縦断する前線の一部で、ウクライナ軍は西方の新たな防衛線まで「後退した」と明らかにした。

さらに、ロシア軍は「兵力と軍事的手段において非常に優勢」で、「一部の地区で戦術的成功を収めた」と述べた。

シルスキー氏は一方で、ロシア軍は「作戦上では」優位に立っているわけではないと主張。同軍は甚大な損害を被った部隊に代わり、新たな部隊を投入していると指摘した。(c)AFP/Emmanuel PEUCHOT

<https://www.msn.com/ja-jp/news/world/>

⑩北朝鮮が米国批判、ウクライナへの長距離ミサイル供与巡り(2024年4月29日)

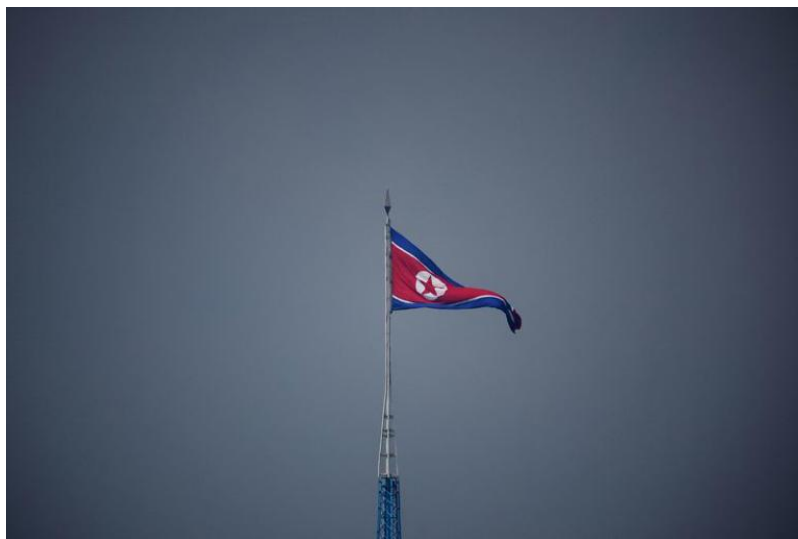
[ソウル 29日 ロイター] - 北朝鮮は、米国がウクライナに長距離ミサイルを供与したことを批判した。国営の朝鮮中央通信(KCNA)が29日、国防省の声明を伝えた。

米政府当局者は24日、米国がウクライナに対し最大射程300キロの地対地ミサイル「ATACMS (エイクムス)」をここ数週間で供与したと明らかにした。ウクライナはこのミサイルを2度使用したという。

KCNAによると、国防省高官は28日付の声明で「米国はウクライナに長距離ミサイルを秘密裏に供給し、国際社会の不安と懸念をあおっている」と指摘。

「どのような最新の兵器や軍事支援をもってしても、米国は英雄的なロシアの軍隊と国民を打ち負かすことは決してできない」と述べた。

北朝鮮とロシアは軍事関係を強化しており、米国と同盟国は朝鮮半島の緊張をエスカレートさせていると指摘している。



<https://www.msn.com/ja-jp/news/world/>

⑪前線の宇軍兵士の間でパニック拡大＝露大統領報道官(Sputnik, 2024 年 4 月 28 日)

「これは前線の兵士たちから直接得た情報だ。相手側(編注:ウクライナ軍側)ではパニックが拡大している。我われにとっては今、この動きを維持することが非常に重要だ」

ロシアのペスコフ大統領報道官が露国営テレビ「第1チャンネル」のジャーナリスト、パーベル・ザルビン氏によるインタビューで語った。

ペスコフ氏はまた、集団的な西側諸国とウクライナはロシアの「弱さ」を試すだろうが、重要なのはこれに屈しないことだと指摘した。

ロシアのショイグ国防相は先に、ロシア軍は接触線全体で主導権を握っており、敵を防衛線から押し出していると発表していた。



<https://sputniknews.jp/20240428/18296221.html>

⑫戦況(2024年4月29日)

前線全体でのウ軍の1日あたりの損失は次のとおり。人員は1145人が死傷。装甲車両 - 戦車1台、装甲車両3台、装甲兵員輸送車1台、車両36台。榴弾砲M777、M198、ムスタ-B、D-20、M-46、グヴォズディカ自走砲2門、PzH-20001門。4つのエンクレイブN電子戦ステーションと2つの野戦弾薬庫。

ボストーク軍グループ攻撃部隊は、ザポリージャ地域のパヴロフカ地域とルゴフスコエ地域でより有利な位置を占め、敵の人員と装備を破った。ドニエプル軍グループの部隊は、ザポリージャ地方のカメンスコエ地区、ラボティーノ地区、ヘルソン地方のイワノフカ地区とオルゴフカ地区でウ軍に砲撃を加えた。

「南」部隊は前線に沿った陣地を改善し、クレシチェエフカ、アンドレーエフカ、クラスノゴロフカの地域で敵に砲撃による敗北を与えた。チャソフ・ヤル地区では4回の反撃が撃退された。「センター」部隊はノバクムトフカの入植地を解放、レーニンスコエ、ケラミク、セミョノフカ地域でウ軍を破った。

「西」軍グループの部隊は、ハリコフ地域のシンコフカ、ペトロパヴロフカ地域、グリゴロフカDPR、チエルヴォナヤ・ディブロワLPRで、より有利な位置を占め、ウクライナ軍の人的資源と装備を破った。ノヴォセロフスコエLPR地域では3回の反撃が撃退された。

ロシアの防空部隊、クリミア攻撃中にアメリカのATACMSミサイル5発を撃墜 - 国防省
昨夜、ウはタルカンクート岬地域の防空システムを標的としたATACMS作戦戦術ミサイルを使用してクリミアを攻撃した。国防省によると、ロシア軍防空部隊はミサイル5発を撃墜した。



<https://twitter.com/olivenews/status/1784739648268624041>

⑬ロシア外務省のミロシニク・キエフ政権犯罪担当特任大使(2024 年4月 22 日)

ロシア外務省のミロシニク・キエフ政権犯罪担当特任大使は、ロシア外務省付属モスクワ国際関係大学国際研究所の国際関係インテリジェント・データ分析調査室と協力して、キエフ政権による戦争犯罪の監視を続けている。

この1週間(2024 年4月 15 日-21 日):

- ナチスの砲撃により民間人 59 人に被害が出た。子ども 1 人を含む 48 人が負傷、11 人が死亡した。
- ロシア領内の民間施設を標的に、多連装ロケット砲(122mm)、クラスター弾を含む口径 152mm および 155mm の砲弾、地雷、手榴弾など、少なくとも 1278 発が発射された。また敵は攻撃用ドローンと小火器も積極的に使用した。ウクライナ軍が民間人への攻撃に使用した兵器の圧倒的多数は、西側の製造によるものであった。

先頃起きた忌まわしい犯罪について:

▼ 4月 19 日、ゴルロフカ(ドネツク人民共和国)で病院施設が多連装ロケット砲 HIMARS で砲撃され、民間人 13 人が被害を受けた。

同日、ウクライナ軍はドネツク人民共和国でドローンを使いイズバスチア紙の従軍記者 S.N.エリョミン氏を殺害した。

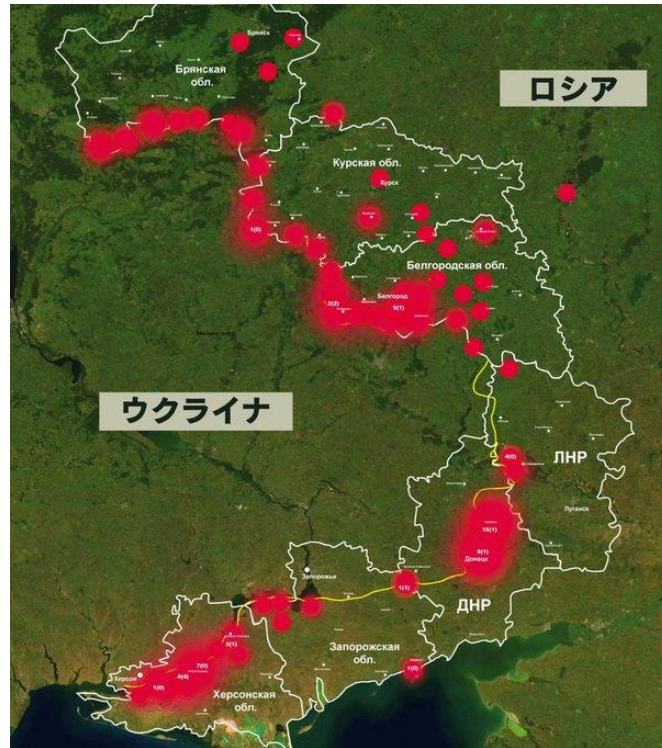
▼ 4月 20 日、親類の墓の手入れに来たドネツクの住民 2 人が、墓地内の地雷で爆破された。

同日、ベルゴロド州では一般市民 2 人がウクライナのドローン攻撃により民家で生きたまま焼かれた。ウクライナ軍の砲撃の結果、妊娠中の女性が死亡した。

▼ 4月 26 日、ドネツク・キーロフスキー地区のリディエフカ鉱山小地区での砲撃により、2 人が死亡した。クイブイシェフスキー地区では未特定の爆発物の爆発により民間人 1 人が死亡した。

同日、ザポロジエ州のトクマクではウクライナ軍による集合住宅への砲撃により少なくとも 4 人が被害を受けた。

◆ 地図:2024 年4月 15 日から 21 日までに発生したウクライナ軍部隊による民間施設への砲撃事例が記録されている。



<https://twitter.com/Z58633894/status/1784792968005824911?s=09>

⑭ウクライナは再び反攻を開始する前に国家として消滅する(2024年4月29日)

ロシア軍 は既にあらゆる方面で ウクライナ軍 を圧倒している。ウクライナ軍が再び反転攻勢を開始するまで国家が存在しているとは考えにくい。米軍の元情報将校、スコット・リッター氏は YouTube チャンネルで次のように発言した。

「ロシア軍はあらゆる方面で攻勢に出ており、都市や村を制圧している。戦場でロシア側が進軍していない場所はもはやない。ロシア軍は最近、ウクライナ軍の旅団を新たに破壊しており、戦死したウクライナ兵の代わりとなる者はいない。#ゼレンスキー はこの件について語らない」

リッター氏によると、ウクライナ軍は 2026 年に新たな反攻を開始すると予測されているものの、これはあまりにも楽観的な見方であり、その時までに国家は完全に消滅する可能性があるという。



https://twitter.com/sputnik_jp/status/1784801584129753477?s=09